

この資料はアサヒプリテック株式会社 横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業 計画段階配慮書の内容を抜粋したものです。

アサヒプリテック株式会社 横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業

計画段階配慮書の概要

令和3年7月

アサヒプリテック株式会社

1

1. 事業計画の概要
2. 地域の概況及び地域特性
3. 計画段階配慮の内容

2

1. 事業計画の概要

3

事業の概要

計画段階事業者の氏名及び住所	アサヒプリテック株式会社 代表取締役社長 中西 広幸 東京都千代田区丸の内1-7-12
事業の名称	アサヒプリテック株式会社 横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業
事業の種類及び規模	廃棄物処理施設の建設（第2分類事業） 横浜市環境影響評価条例施行規則 別表第1 6 廃棄物処理施設の建設 （1）産業廃棄物処理施設 焼却施設の新設 焼却能力90t/日
計画区域の位置	横浜市鶴見区大黒町18番46 他

4

事業の目的

【 環境問題解決への貢献 】

《高効率の廃棄物発電焼却施設建設》

⇨ 廃棄物を焼却する際に発生する廃熱を利用した発電

- ① リサイクルに適さない廃棄物の適正処理
- ② 発電量相当分の二酸化炭素を削減

〔背景〕 国内外における環境問題

- 廃プラスチック問題：
海洋プラスチック問題
海外輸出規制の強化（国内処理施設整備急務）
- 地球温暖化防止：
脱炭素化社会への貢献

配慮書P4 この資料はアサヒブリテック株式会社 横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業計画段階配慮書の内容を抜粋したものです。

5

計画区域の位置




【概要】

用途地域：工業専用地域

臨港地区：工業港区



凡例

 : 計画地

 : 区界

配慮書P2 この資料はアサヒブリテック株式会社 横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業計画段階配慮書の内容を抜粋したものです。

6

事業計画の概要

計画内容	既設廃棄物処理施設（中和処理、汚泥等のセメントリサイクル処理、木くずチップの製造）を解体した跡地に替わって、廃棄物発電焼却施設を建設する計画
施設の概要	焼却処理 : <u>90t/日（24時間）</u> 発電能力 : 1,650kW（予定） 排気筒（煙突）高さ : 35m
工事予定期間	令和5年度～令和7年度 解体・建設工事 令和7年度 供用開始

配慮書P5, 8, 23 この資料はアサヒプリテック株式会社 横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業計画段階配慮書の内容を抜粋したものです。

7

土地利用計画

土地利用区分		面積 (m ²) ※1	構成比	備考	
建物	既設	事務所棟 作業場 トイレ棟	約250	2%	作業場は、廃油再生処理施設の作業場所
	新設	供給棟	約2,000	13%	操作室や廃棄物ピット、機械装置等の設置を行う建物面積にはスロープを含む建物高さ約28mを計画
		タービン棟	約240	2%	発電設備の建物 蒸気タービンや発電機等
		保管倉庫等	約1,352	9%	
	建物合計		約3,842	26%	
屋外施設	既設	廃油再生処理施設	約660	4%	
	新設	焼却施設	約1,200	8%	
搬入出車両スペース		約6,930	46%	車道や車両待機場所等	
緑地		約2,292	15%	緑地率15.36%を計画	
合計		約14,923	100%		

※1 今後の関係機関協議により、数値等は変更になる可能性があります。

配慮書P6 この資料はアサヒプリテック株式会社 横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業計画段階配慮書の内容を抜粋したものです。

8

計画地の配置



既設の工場A、B棟等を解体した跡地に、焼却施設を建設する計画

凡例

- : 計画地
- : 解体
- : 建物-既設
- : 建物-新設
- : 屋外施設-既設
- : 屋外施設-新設
- : 搬入出車両スペース
- : 緑地



配慮書P7, 14, 15 この資料はアサヒブリテック株式会社 横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業計画段階配慮書の内容を抜粋したものです。

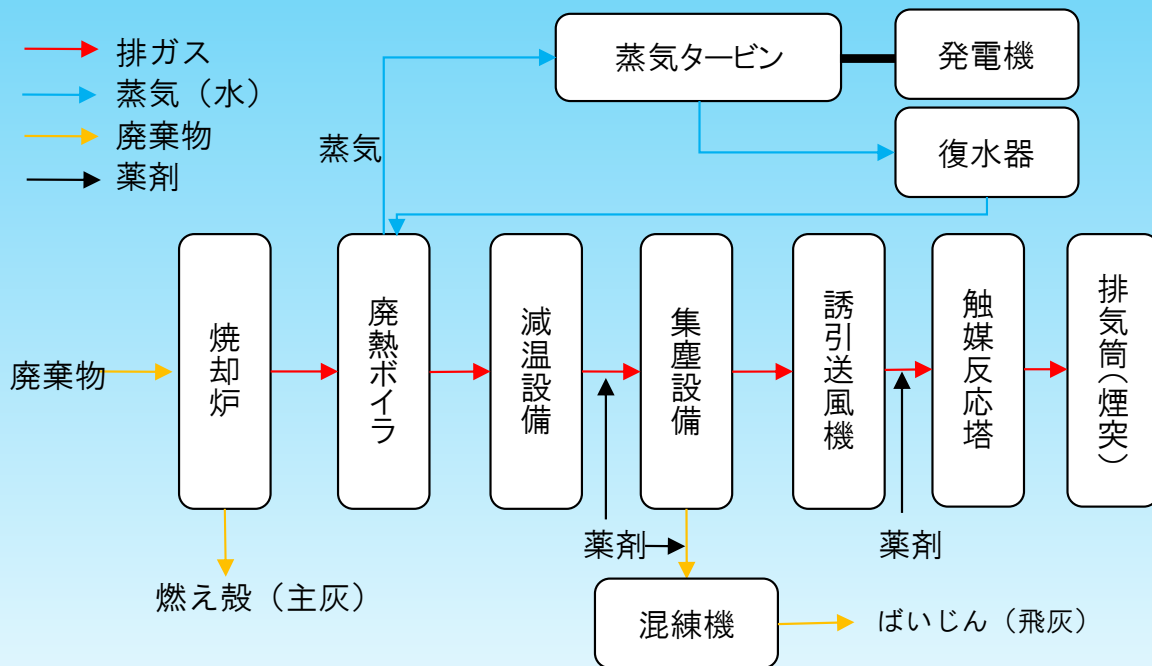
施設の概要

項目	内容	
焼却能力	90 t/日 (24時間)	
処理方式	ロータリキルン・ストーカ方式	
排ガス処理設備	集塵方式	ろ過式 (バグフィルタ) + サイクロン
	脱硫・脱塩	乾式処理 (高反応石灰 + アルカリ薬剤)
	脱硝	触媒脱硝 (薬剤注入)
	ダイオキシン類対策	燃焼制御 + 触媒反応 + 活性炭吸着
	水銀対策	活性炭吸着
排ガス諸元 (12%換算濃度) ※1	排ガス量 (湿り)	約39,700 m ³ _N /h
	硫黄酸化物	88 ppm
	窒素酸化物	80 ppm
	ばいじん	0.028 g/m ³ _N
	塩化水素	46 mg/m ³ _N
	ダイオキシン類	1 ng-TEQ/m ³ _N
	水銀	30 μg/m ³ _N

※1 今後の関係行政協議等により、数値等は変更になる可能性があります。

配慮書P8, 9 この資料はアサヒブリテック株式会社 横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業計画段階配慮書の内容を抜粋したものです。

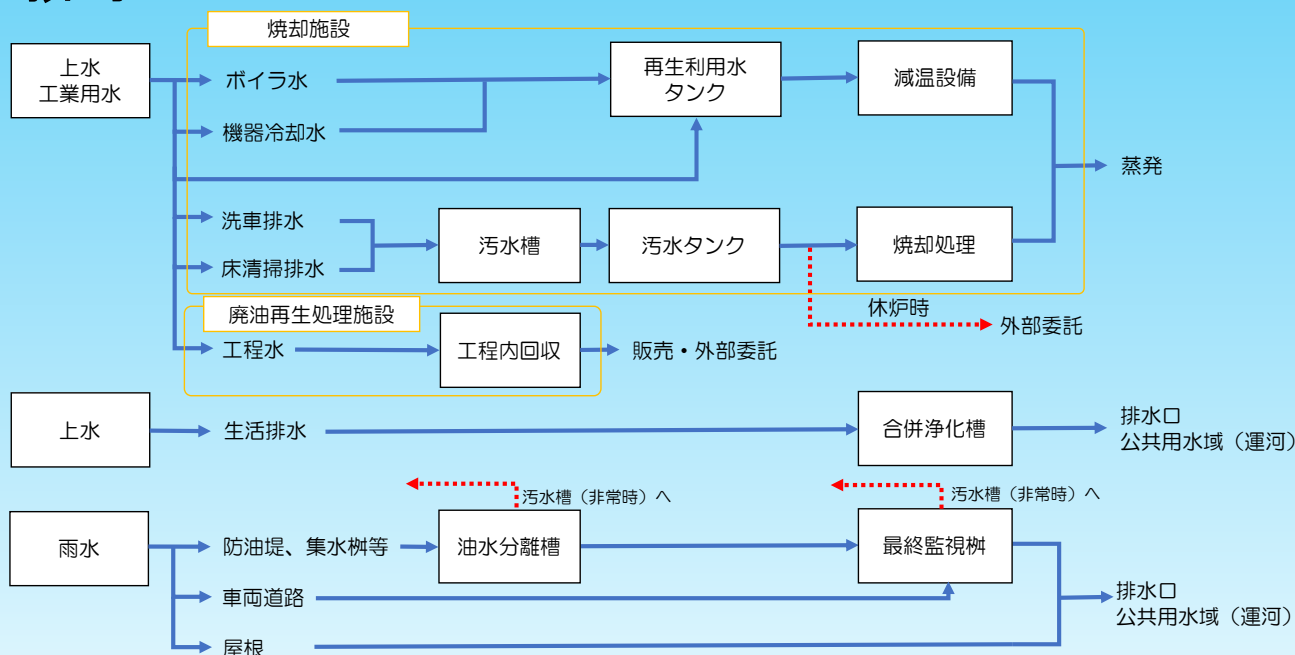
焼却施設のプロセスフロー



- 廃棄物を焼却する際に発生する廃熱を利用し、発電を行います。
- **発電した電力は工場内で利用**するだけでなく、余剰電力は、売電或いは地域利用など有効活用を検討します。

配慮書P8 この資料はアサヒブリテック株式会社 横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業計画段階配慮書の内容を抜粋したものです。

排水フロー



- 焼却施設から排水されるボイラ水や機器冷却水は、再利用水タンクに貯留し、減温設備で蒸発させるため放流することはありません。
- 洗車排水や床清掃排水は、全て回収し、焼却処理します。
- 合併浄化槽で処理した生活排水と屋根雨水は運河へ放流します。
- 油水分離槽や最終監視柵を設け、**pH値・導電率の常時監視**も行います。

配慮書P11, 12 この資料はアサヒブリテック株式会社 横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業計画段階配慮書の内容を抜粋したものです。

取扱う廃棄物の計画内容

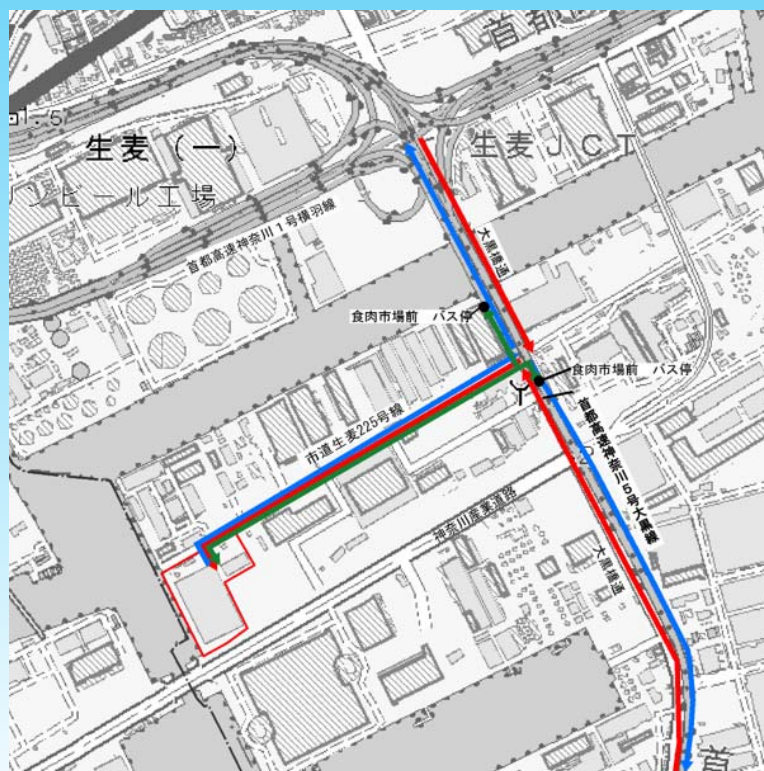
- 取扱う廃棄物は、横浜市及び近隣自治体に所在する企業や工場等から排出される産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物が主な対象になります。

	産業廃棄物	特別管理産業廃棄物
焼却施設 (新設)	汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ 廃プラスチック類 ゴムくず、紙くず、木くず、繊維くず 動物系固形不要物、動植物性残さ 燃え殻、ばいじん、金属くず ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	引火性廃油 廃酸 (pH2.0以下) 廃アルカリ (pH12.5以上) 感染性産業廃棄物 特定有害産業廃棄物 (汚泥、廃酸、廃アルカリ、 廃油、燃え殻、ばいじん)
廃油再生 処理施設 (既設)	汚泥 廃油 廃酸 廃アルカリ	引火性廃油 廃酸 (pH2.0以下) 廃アルカリ (pH12.5以上) 1,4-ジオキサンを含む廃油

配慮書P9 この資料はアサヒブリテック株式会社 横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業計画段階配慮書の内容を抜粋したものです。

13

搬入出車両計画



凡例

- : 計画地
- : 搬入ルート
- : 搬出ルート
- : 歩行者動線

項目	搬入出台数 (片道)
現在	90台/日
減少	- 65台/日
増加	50台/日
合計 (想定)	75台/日

配慮書P17, 18 この資料はアサヒブリテック株式会社 横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業計画段階配慮書の内容を抜粋したものです。

14

緑化計画

- 緑地面積は、現在の約2,266.66㎡から、配置の変更、屋上緑化を行い、約2,292㎡を計画します。
- 計画地の緑化率は、横浜市「緑の環境をつくり育てる条例」第9条に基づく15%以上に対し、15.36%を計画します。
- 現存する植栽は、可能な限り維持し、生育と表土の保全に努めます。
- 樹種等の選定については、京浜の森づくり事業の「協働緑化の取組」等を参考にして、良好な緑地づくりを図ります。



配慮書P19, 20 この資料はアサヒブリテック株式会社横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業計画段階配慮書の内容を抜粋したものです。

15

事業スケジュール案

本事業は、横浜市環境影響評価条例の手続きや、関係行政との協議等の完了後に、工事着工を行います。

令和5年（2023年）～令和7年（2025年）

解体、建設工事

令和7年（2025年）

供用開始予定

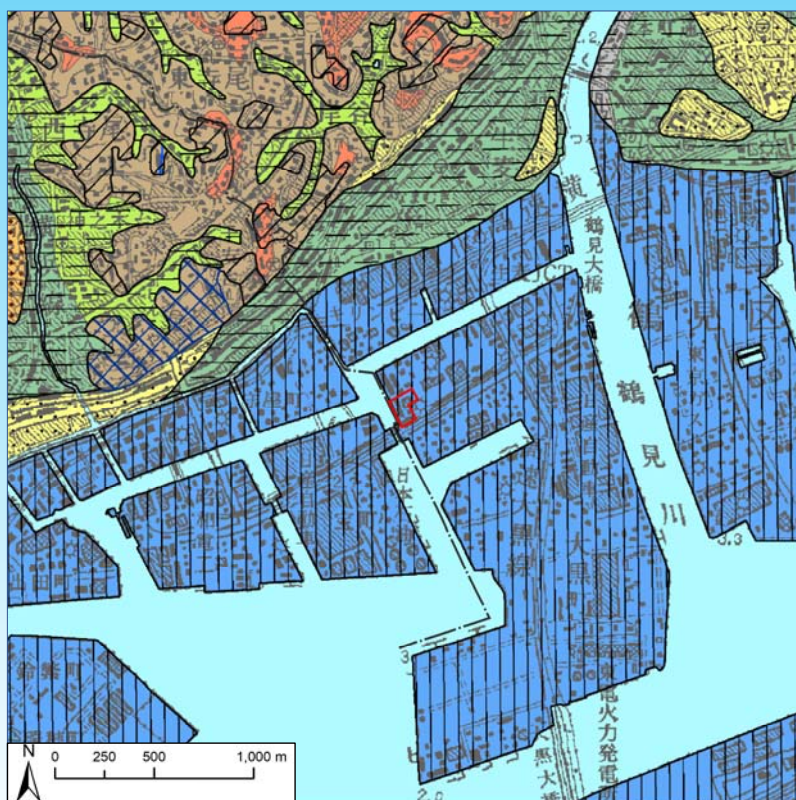
配慮書P23 この資料はアサヒブリテック株式会社 横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業計画段階配慮書の内容を抜粋したものです。

16

2. 地域の概況及び地域特性

17

地形、地質、地盤の状況



計画地とその周辺は、旧水部の埋立地です。

凡例

□ 計画地

(人工地形)

▨ : 宅地等

▨ : 盛土地

▨ : 埋立地

▨ : 切土地

(自然地形)

■ : 山地斜面等

■ : 砂礫台地

■ : ローム台地

■ : 谷底低地

■ : 三角洲・海岸低地

■ : 砂州・砂堆

(礫州・礫堆)

■ : 河原・河川敷

■ : 旧水部

地形の状況

水循環の状況



計画地は、**横浜港港湾区域内**に位置し、**西側は大黒運河に面しています。**

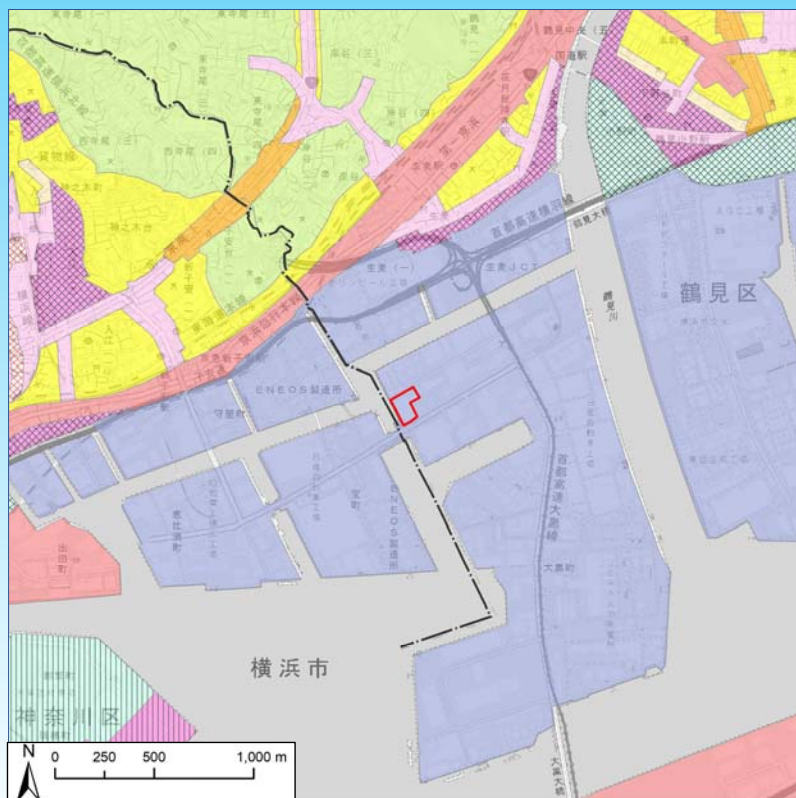
凡例

- 計画地
- 1級河川
- 準用河川
- 運河
- 湧水

海域及び河川の状況

配慮書P32, 33 この資料はアサヒブリテック株式会社 横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業計画段階配慮書の内容を抜粋したものです。

土地利用の状況



計画地の用途地域は**工業専用地域**であり、**計画地の周囲全てが工業専用地域**となっています。**最も近い住居まで約700m**離れています。

凡例

- 計画地
- 第二種中高層住居専用地域
- 第一種住居地域
- 第二種住居地域
- 準住居地域
- 近隣商業地域
- 商業地域
- 商業地域(第6種高度地区)
- 準工業地域(第5種高度地区)
- 準工業地域(第7種高度地区)
- 工業地域(第5種高度地区)
- 工業地域(第7種高度地区)
- 工業専用地域

用途地域の指定状況

配慮書P40, 41 この資料はアサヒブリテック株式会社 横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業計画段階配慮書の内容を抜粋したものです。

交通、運輸の状況



計画地の北側を高速神奈川1号横羽線、国道15号、国道1号が、東側を大黒橋通、高速神奈川5号大黒線が、南側を新子安大黒線（神奈川産業道路）が、南側遠方を高速湾岸線が通過しています。

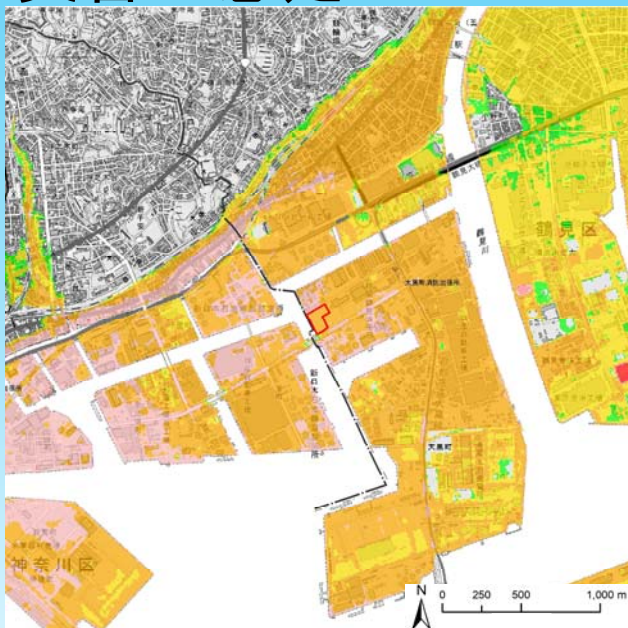
凡例

- 計画地
- 都市高速道路
- 一般国道
- 主要地方道
- 一般県道
- 一般市道

主要道路

配慮書P42, 43 この資料はアサヒブリテック株式会社 横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業計画段階配慮書の内容を抜粋したものです。

災害の想定



計画地	
浸水深	
0.01m以上0.3未満	3.0m以上4.0未満
0.3m以上1.0未満	4.0m以上5.0未満
1.0m以上2.0未満	5.0m以上10.0未満
2.0m以上3.0未満	

津波浸水想定

津波浸水想定図において、計画地の浸水深は、**1.0m以上2.0m未満**と想定されています。
高潮浸水想定区域の指定において、計画地の浸水深は、**0m以上0.5m未満**と想定されています。

計画地	
【高潮】浸水想定区域	
0<浸水深 (m) <0.5m	5.0≦浸水深 (m) <10.0m
0.5≦浸水深 (m) <3.0m	10.0≦浸水深 (m) <20.0m
3.0≦浸水深 (m) <5.0m	20.0≦浸水深 (m)

高潮浸水想定区域

配慮書P75, 82, 83 この資料はアサヒブリテック株式会社 横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業計画段階配慮書の内容を抜粋したものです。

3. 配慮指針に基づいて行った 計画段階配慮の内容

23

計画段階配慮の内容

○基本的な配慮事項

横浜市環境配慮指針 「6. 廃棄物処理施設の建設」に関する配慮事項の要点		選定
(1)	計画地の選定や施設配置等の検討に係る周辺環境への影響の低減 生物の生息生育環境の保全や景観機能等を考慮した分断・改変の回避 温室効果ガスの排出抑制の検討	○
(2)	計画地及びその周辺の自然環境、社会文化環境等の情報収集、環境資源等の現 況把握	○
(3)	安全な工法や工程等の検討、市民への情報提供	○
(4)	環境負荷低減や水とみどりの環境形成に関する法令や条例、指針等の遵守	○

24

計画段階配慮の内容

○本事業に係る配慮事項

横浜市環境配慮指針 「6. 廃棄物処理施設の建設」に関する配慮事項の要点		選定
(5)	生物の生息、生育の場の提供、良好な景観形成、雨水の浸透・貯留、ヒートアイランド現象の緩和、防災・減災、人々が交流し活動する場など、多様な機能を持つグリーンインフラの保全と活用	○
(6)	建物屋上や壁面などの敷地の緑化による生物の生息生育環境の確保 緑化に際しては、郷土種の植栽などによる生物多様性の保全と創造	○
(7)	再生可能エネルギーや廃熱有効利用などの未利用エネルギーの積極的な活用	○
(8)	低炭素電気の選択、建設資材や設備等のグリーン購入	○
(9)	次世代自動車の積極的な導入や公共交通等の利用促進など、運輸部門における二酸化炭素の排出抑制	○
(10)	ライフサイクルや長寿命化による温室効果ガスの抑制	○

この資料はアサヒブリテック株式会社 横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業計画段階配慮書の内容を抜粋したものです。

25

計画段階配慮の内容

○本事業に係る配慮事項

横浜市環境配慮指針 「6. 廃棄物処理施設の建設」に関する配慮事項の要点		選定
(11)	人工排熱の抑制や緑化等によるヒートアイランド現象の抑制	○
(12)	建物外観の周辺建物との連続性や後背地との調和	○
(13)	火災、爆発等の発生防止、周辺への影響に留意した土地利用や施設の整備	○
(14)	最新技術、設備の導入により、廃棄物処理工程等で発生する大気汚染物質、水質汚濁物質、悪臭、有害化学物質、土壌汚染物質等を抑制	○
(15)	ばい煙発生施設の更新、増設の場合には、窒素酸化物、硫黄酸化物、ばいじんの排出量を現状以下にする	×
(16)	排水を排出する施設の更新、増設の場合には、COD、BOD、SSの排出負荷量を現状以下にする	×
(17)	最終処分場については、レクリエーション施設等を設置し、市民開放を行う	×
(18)	廃棄物等の発生抑制、再使用及び再生利用	○

この資料はアサヒブリテック株式会社 横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業計画段階配慮書の内容を抜粋したものです。

26

計画段階配慮の内容

○基本的な配慮事項

- (1) 計画地の選定や施設配置等の検討に係る周辺環境への影響の低減

配慮の内容 配慮事項 (1) - 1

- 計画地は、工業専用地域で、周辺には製造業、物流企業の建物が多く、隣接地では横浜市東部方面斎場の建設が予定されており、計画地の南側に神奈川産業道路が通っています。
- それらを踏まえ、施設の配置検討に当たっては、建物を南側に配置することで、排気筒（煙突）の存在による圧迫感を低減させ、**周辺建物との調和と神奈川産業道路側からの景観に配慮**します。

配慮書P95 この資料はアサヒプリテック株式会社 横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業計画段階配慮書の内容を抜粋したものです。

27

計画段階配慮の内容

○基本的な配慮事項

- (1) 生物の生息生育環境の保全や景観機能等を考慮した分断・改変の回避

配慮の内容 配慮事項 (1) - 2

- 本事業に伴い貴重な動植物の営巣・生息地等の分断、改変はありません。
- 神奈川産業道路に沿う**緑地帯との連続性を持たせる緑化計画**を検討していきます。

配慮書P95 この資料はアサヒプリテック株式会社 横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業計画段階配慮書の内容を抜粋したものです。

28

計画段階配慮の内容

○基本的な配慮事項

(1) 温室効果ガスの排出抑制の検討

配慮の内容 配慮事項 (1) - 3

- 本事業では、廃棄物を焼却する際に発生する**廃熱を利用した発電**を行うことで、発電量に相当する二酸化炭素の削減を行います。
- 「横浜市地球温暖化対策実行計画」等に基づき、脱炭素化社会に貢献する事業を目指します。

配慮書P95 この資料はアサヒプリテック株式会社 横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業計画段階配慮書の内容を抜粋したものです。

29

計画段階配慮の内容

○基本的な配慮事項

(2) 計画地及びその周辺の自然環境、社会文化環境等の情報収集、環境資源等の現況把握

配慮の内容

- 計画段階配慮書の作成を通じて、地域の概況について、情報収集を行いました。
- 調査対象地域は、計画地が位置する横浜市鶴見区と隣接する神奈川区を対象としました。

配慮書P95 この資料はアサヒプリテック株式会社 横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業計画段階配慮書の内容を抜粋したものです。

30

計画段階配慮の内容

○基本的な配慮事項

(3) 安全な工法や工程等の検討、市民への情報提供

配慮の内容

- 建築基準法を遵守し、耐震安全性に基づく設計、建設を行います。
- 解体の際は、養生や囲い、散水にて、飛散防止や粉じん対策を行い、工事車両のタイヤ洗浄等により周辺道路の汚れ防止に努め、解体物の搬出時における飛散防止にも配慮します。
- 法令等に基づいてアスベスト建材の調査を行い、必要に応じた対応を行います。
- 土壌汚染対策法に定める手続きや必要な事前調査を行い、土壌汚染が確認された場合は、同法に定める必要に応じた対策を講じます。
- 事前説明や工事看板の設置等を通じて、住民や近隣企業への情報提供に努めます。

配慮書P96 この資料はアサヒプリテック株式会社 横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業計画段階配慮書の内容を抜粋したものです。

31

計画段階配慮の内容

○基本的な配慮事項

(4) 環境負荷低減や水とみどりの環境形成に関する法令や条例、指針等の遵守

配慮の内容

- 環境に関する法令及び条例、指針等に従い、環境負荷の低減を行います。
- 焼却施設には排ガス処理設備を設置するとともに、運転管理や設備点検を充実させ、大気環境への影響低減を図ります。
- 「緑の環境をつくり育てる条例」第9条に基づく緑化率15%以上に対し、15.36%を計画します。
- 緑地面積は、現在の約2,266.66m²から、配置の変更、屋上緑化を行い、約2,292m²を計画し、可能な限りの拡張についても検討します。

配慮書P96 この資料はアサヒプリテック株式会社 横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業計画段階配慮書の内容を抜粋したものです。

32

計画段階配慮の内容

○本事業に係る配慮事項

- (5) 生物の生息、生育の場の提供、良好な景観形成、雨水の浸透・貯留、ヒートアイランド現象の緩和、防災・減災、人々が交流し活動する場など、多様な機能を持つグリーンインフラの保全と活用

配慮の内容

- グリーンインフラの保全、活用を図るため、計画地の緑地維持と保全、可能な限りの拡張を検討します。
- 計画地南側の緑地については、神奈川産業道路の緑地帯との連続性を持たせるような植栽の検討も行い、ヒートアイランド現象の緩和、良好な景観形成を図ります。

配慮書P96 この資料はアサヒプリテック株式会社 横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業計画段階配慮書の内容を抜粋したものです。

33

計画段階配慮の内容

○本事業に係る配慮事項

- (6) 建物屋上や壁面などの敷地の緑化による生物の生息生育環境の確保
緑化に際しては、郷土種の植栽などによる生物多様性の保全と創造

配慮の内容

- 現存する植栽は、可能な限り維持し、引き続き生育と表土の保全に努めます。
- 新設する保管倉庫の屋根の一部には、屋上緑化を計画します。
- 「横浜市環境管理計画」や京浜の森づくり事業の「協働緑化の取組」に掲げられる取組方針や具体的取組を理解し、様々な緑化技術や事例を参考に良好な緑地づくりを行います。

配慮書P96 この資料はアサヒプリテック株式会社 横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業計画段階配慮書の内容を抜粋したものです。

34

計画段階配慮の内容

○本事業に係る配慮事項

(7) 再生可能エネルギーや廃熱有効利用などの未利用エネルギーの積極的な活用

配慮の内容

- リサイクルに不適な廃棄物等を熱源に、燃焼により生じる**廃熱を利用した廃棄物発電**を行います。
- 発電した電力は、施設の稼働を含む**計画地の電力に利用**します。余剰電力は、売電或いは地域利用など有効活用する計画です。
- 採用する設備機器は、高効率電動機やLED照明等の省エネルギー型機器を導入します。

配慮書P97 この資料はアサヒブリテック株式会社 横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業計画段階配慮書の内容を抜粋したものです。

35

計画段階配慮の内容

○本事業に係る配慮事項

(8) 低炭素電気の選択、建設資材や設備等のグリーン購入

配慮の内容

- 焼却施設の点検や整備に伴い発電を停止している間の電力供給においては、**二酸化炭素排出係数の低い電力を調達**するように努めます。
- 建設資材、事業に伴い購入する消耗品等においては、グリーン購入に努めます。

配慮書P97 この資料はアサヒブリテック株式会社 横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業計画段階配慮書の内容を抜粋したものです。

36

計画段階配慮の内容

○本事業に係る配慮事項

(9) 次世代自動車の積極的な導入や公共交通等の利用促進など、運輸部門における二酸化炭素の排出抑制

配慮の内容

- 通勤は**公共交通機関利用の促進**のため、社員用バスによる乗り合いを行っております。車両通勤者へのエコ運転や、待機車両へのアイドリングストップの指導も行っており、引き続き二酸化炭素の排出抑制に努めます。
- 社用車や計画地で使用するフォークリフトは、EV車の導入を優先します。計画地近隣で水素充填が可能になった際は、FC車の導入等も検討していきます。

配慮書P97 この資料はアサヒプリテック株式会社 横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業計画段階配慮書の内容を抜粋したものです。

37

計画段階配慮の内容

○本事業に係る配慮事項

(10) ライフサイクルや長寿命化による温室効果ガスの抑制

配慮の内容

- 工事や解体に用いる車両は低公害車、建設機械は低燃費型を極力採用します。
- 設備は、**長寿命化を考慮した設計や材質選定**を行い、腐食劣化を遅延させるための塗膜、断熱構造を採用し、ライフサイクルの延命を通じ、温室効果ガスの抑制に努めます。
- 運用においても、日常及び定期の点検・整備を行い、適切な維持管理を通じて、温室効果ガスの抑制に努めます。

配慮書P97 この資料はアサヒプリテック株式会社 横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業計画段階配慮書の内容を抜粋したものです。

38

計画段階配慮の内容

○本事業に係る配慮事項

(11) 人工排熱の抑制や緑化等によるヒートアイランド現象の抑制

配慮の内容

- 焼却施設は、適所に断熱施工を採用することで、放熱を低減させる設計を行います。
- 建物の空調、給湯設備においては、省エネ設備を導入し、排熱低減を図ります。
- 計画地の緑地面積の確保、植栽の維持や保全を行い、また、**屋上緑化も採用**することで、ヒートアイランド現象の抑制に努めます。

配慮書P97 この資料はアサヒプリテック株式会社 横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業計画段階配慮書の内容を抜粋したものです。

39

計画段階配慮の内容

○本事業に係る配慮事項

(12) 建物外観の周辺建物との連続性や後背地との調和

配慮の内容

- 建物を南側に配置することで、排気筒（煙突）の存在による圧迫感を低減させる建物配置や、計画地の南側を通る**神奈川産業道路からの景観への配慮と、周囲の建物外観や高さとの調和**を図ります。
- 建物色彩は、「みなと色彩計画」（昭和63年4月）に定める配色基準に従い、神奈川産業道路からの眺望に配慮した景観を計画します。
- 排気筒（煙突）からの白煙（水蒸気）については、周辺景観への配慮とし、排ガスの再加熱による白煙抑制を行います。

配慮書P98 この資料はアサヒプリテック株式会社 横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業計画段階配慮書の内容を抜粋したものです。

40

計画段階配慮の内容

○本事業に係る配慮事項

(13) 火災、爆発等の発生防止、周辺への影響に留意した土地利用や施設の整備

配慮の内容 (13) - 1

- 廃棄物の処理及び清掃に関する法律並びに消防法、消防指導事項等を遵守し、従業員への防災教育、訓練を計画的に実施します。
- 焼却施設には感震計を設置し、緊急対応が必要な地震検知において、稼働機器を安全に自動停止する機能を設けます。
- 受け入れる廃棄物は排出事業者より性状、数量、荷姿等の事前情報を取得し、契約後に受け入れます。受入時には現物の確認を行い、**火災、爆発等事故発生を防止**します。

配慮書P98 この資料はアサヒプリテック株式会社 横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業計画段階配慮書の内容を抜粋したものです。

41

計画段階配慮の内容

○本事業に係る配慮事項

(13) 火災、爆発等の発生防止、周辺への影響に留意した土地利用や施設の整備

配慮の内容 (13) - 2

- 計画地は、神奈川県津波浸水想定図において、1.0m以上2.0m未満の浸水が想定されています。
- 浸水対策として、供給棟はスロープを設けることで、**廃棄物ピットが浸水しない高さまで嵩上げ**します。受電設備や電気室、機械室は、建物上階に設置する計画とし、蒸気タービンや発電機、廃熱ボイラ、減温設備、集塵設備など重要な機器、設備は、浸水しない高さまで基礎や架構を設ける計画とします。新設する建物や倉庫の出入口やシャッターには、脱着式止水板や止水シートの設置が可能となる設計を採用し、浸水対策を講じる計画とします。

配慮書P98 この資料はアサヒプリテック株式会社 横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業計画段階配慮書の内容を抜粋したものです。

42

計画段階配慮の内容

○本事業に係る配慮事項

(13) 火災、爆発等の発生防止、周辺への影響に留意した土地利用や施設の整備

配慮の内容 (13) - 3

- 液状化対策として、ボーリング調査を行い、地盤状況を把握し、不等沈下や側方流動の可能性も考慮し検討します。
- 焼却施設で使用する液体薬剤については、防液堤等を設け漏洩対策を行います

配慮書P98 この資料はアサヒプリテック株式会社 横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業計画段階配慮書の内容を抜粋したものです。

43

計画段階配慮の内容

○本事業に係る配慮事項

(14) 最新技術、設備の導入により、廃棄物処理工程等で発生する大気汚染物質を抑制

配慮の内容 (14) - 1

- 法令等を遵守し、可能な限りの濃度低減を図ります。
- 燃焼温度は、850℃を下回らないように自動管理を行います。
- 排ガス処理施設により、大気環境への影響を低減します。
 - ・ ばいじん除去（バグフィルタ＋サイクロン）
 - ・ 脱硫脱塩（高反応消石灰＋アルカリ薬剤）
 - ・ 脱硝（触媒反応）
 - ・ ダイオキシン類除去（活性炭吸着＋触媒反応）
 - ・ 水銀除去（活性炭吸着）

配慮書P99 この資料はアサヒプリテック株式会社 横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業計画段階配慮書の内容を抜粋したものです。

44

計画段階配慮の内容

○本事業に係る配慮事項

(14) 最新技術、設備の導入により、廃棄物処理工程等で発生する大気汚染物質を抑制

配慮の内容 (14) - 2

- **排ガス計による**硫黄酸化物、窒素酸化物、塩化水素、一酸化炭素、酸素濃度の**常時監視**を行います。
- 脱硫脱塩・脱硝に用いる薬剤供給量は、排ガス計に連動した自動制御を行い、活性炭噴霧量は、安全率を加味した供給量を固定噴霧する計画とします。
- 排ガス処理設備の性能を維持するための点検や整備を行い、環境への影響低減を図ります。また、従業員への運転教育、熟練者による指導や育成を行い、安定した運転管理が行える組織体制も構築します。

配慮書P99 この資料はアサヒプリテック株式会社 横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業計画段階配慮書の内容を抜粋したものです。

45

計画段階配慮の内容

○本事業に係る配慮事項

(14) 最新技術、設備の導入により、廃棄物処理工程等で発生する水質汚濁物質を抑制

配慮の内容 (14) - 3

- 焼却施設から排水されるボイラ水や機器冷却水は、再利用水タンクに貯留し、減温設備にて蒸発させるため、放流することはありません。
- 洗車排水や床清掃排水は、**全て汚水槽で回収し、焼却処理**します。
- 休炉中に排水が発生した場合は、汚水タンクに貯留し、稼働後に焼却処理、もしくは外部の処理業者に委託します。
- 生活排水は、合併浄化槽で処理した後、排水口より公共用水域（大黒運河）に放流します。

配慮書P99 この資料はアサヒプリテック株式会社 横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業計画段階配慮書の内容を抜粋したものです。

46

計画段階配慮の内容

○本事業に係る配慮事項

(14) 最新技術、設備の導入により、廃棄物処理工程等で発生する水質汚濁物質を抑制

配慮の内容 (14) - 4

- 建物屋根の雨水は、排水口より公共用水域（大黒運河）に放流します。
- 防油堤や側溝には集水柵や止水バルブを設置し、非常時に汚水を回収できるようにします。
- 防油堤や集水柵等の雨水は、油水分離槽を通して、排水口より公共用水域（大黒運河）に放流します。
- 雨水を放流する排水口の前には、**最終監視柵を設け、pH値・導電率の常時監視**を行います。
- 用水は上水と工業用水を利用し、地下水の汲み上げは行いません。

配慮書P99 この資料はアサヒブリテック株式会社 横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業計画段階配慮書の内容を抜粋したものです。

47

計画段階配慮の内容

○本事業に係る配慮事項

(14) 最新技術、設備の導入により、廃棄物処理工程等で発生する悪臭、有害化学物質、土壤汚染物質等を抑制

配慮の内容 (14) - 5

【騒音・振動】

- 蒸気タービン、復水ファン、送風機、ポンプ等は、防音・防振対策を講じます。蒸気タービンや誘引送風機、空気圧縮機は建屋内に設置することで、周辺環境に配慮します。
- 横浜市生活環境の保全等に関する条例に基づき、計画地において発生する**騒音・振動の規制基準を遵守**します。
- 日常及び定期の点検・整備等を実施し、異音等が発生しないように設備の適切な維持及び安全確認を行います。

配慮書P100 この資料はアサヒブリテック株式会社 横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業計画段階配慮書の内容を抜粋したものです。

48

計画段階配慮の内容

○本事業に係る配慮事項

(14) 最新技術、設備の導入により、廃棄物処理工程等で発生する悪臭、有害化学物質、土壤汚染物質等を抑制

配慮の内容 (14) - 6

【地下浸透防止対策】

- 廃棄物の保管場所の床面は、コンクリート構造で計画します。地下浸透禁止物質の保管場所には、床面に樹脂によるコーティングやステンレス製の板などを設置し、漏洩時の地下浸透防止策を講じます。
- 廃油や廃液の保管タンクは、防油堤や防液堤を設け、漏洩を防止します。
- 処理後の燃え殻（主灰）やばいじん（飛灰）の保管については、コンテナ等に貯留し、屋内で管理します。

配慮書P100 この資料はアサヒブリテック株式会社 横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業計画段階配慮書の内容を抜粋したものです。49

計画段階配慮の内容

○本事業に係る配慮事項

(14) 最新技術、設備の導入により、廃棄物処理工程等で発生する悪臭、有害化学物質、土壤汚染物質等を抑制

配慮の内容 (14) - 6

【悪臭対策】

- 廃棄物ピットの入口にシャッターを設け、廃棄物ピット周辺の空気は、焼却施設の燃焼室に吸引し、高温焼却することで無害化します。
- 屋外に保管する廃棄物は、密閉式の容器に収めて保管します。
- 感染性産業廃棄物については、基本的に搬入後即日処理しますが、保管が必要な場合は、保冷設備内に保管する計画とします。

配慮書P100 この資料はアサヒブリテック株式会社 横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業計画段階配慮書の内容を抜粋したものです。50

計画段階配慮の内容

○本事業に係る配慮事項

(18) 廃棄物等の発生抑制、再使用及び再生利用

配慮の内容 (18)

- 燃え殻（主灰）は10%未満の熱灼率で管理し、発生抑制に努めます。
- 燃え殻（主灰）に混入する鉄スクラップ類は、磁力選別にて除去し、また再生利用（セメント原料等）の検討も行うことで、**最終処分（埋立）量の抑制**を図ります。
- ばいじん（飛灰）は、加水による飛散防止、薬剤による不溶化処理を行い、最終処分（埋立）場に搬出する計画とします。
- 燃え殻（主灰）やばいじん（飛灰）の保管は屋内で行い、雨風による飛散防止対策を講じます。
- 解体や建設工事により発生する廃棄物においては、分別の徹底を行い、**発生抑制、処分量の削減、再使用及び再生利用の促進**を図ります。

配慮書P101 この資料はアサヒブリテック株式会社 横浜工場廃棄物発電焼却施設の建設事業計画段階配慮書の内容を抜粋したものです。

51

ご清聴ありがとうございました。